

導入と歓迎

Bowles 議長、ECON のメンバーの方々、私は、この委員会でお話しできることを光栄に思います。このようなことは、私がオランダの財務大臣を務めた時以来のことです。議会におりますと、多くの甘美な記憶に呼び起こされます。

私は喜んで私達の仕事に関する皆様のご質問にお答えします。しかし、まず2つのトピックから、簡潔に始めたいと考えています。

第一に IASB と欧州の関係の重要性について言及したいと思います。

第二に会計基準の役割と金融危機についての考察について言及したいと思います。

① IASB の欧州との関係

欧州と IASB の関係は両者にとって戦略的に重要です。

欧州は 2005 年に IFRS を適用する決定の際に政治的・財務的資本を費やしました。欧州の決定は IASB がグローバルな基準設定主体への道筋となりました。

欧州議会は IFRS を圧倒的多数で承認し、IFRS を国際的に認められた財務報告言語となるように求めました。

多くの国が欧州の主導に従い、IFRS の適用を選択しました。米州ではほぼすべてのラテンアメリカの国とカナダが完全に向かっています。アジア太平洋州では、豪州、ニュージーランド、韓国、香港及びシンガポールが現在ないし将来の完全な IFRS 適用国です。日本は国内企業への IFRS 任意適用を容認し、一方、中国はコンバージェンスの最中にあります。南アフリカとイスラエルは、完全に向かっています。

欧州の EU 域外では、トルコが完全適用し、ロシアは仕掛中です。G20 加盟国の大半は IFRS 適用国です。

米国 SEC は IFRS を自国の財務報告制度の中に組み込むかどうか近々決定するでしょう。私は SEC の積極的な意思決定について楽観的な見方をしています。長年のコンバージェンス作業の後の消極的な決定は、大変残念なものになるでしょう。このような決定は、起こりそうにはありませんが、我々の進捗を遅らせることはあっても、停止させることはありません。IFRS 適用の背後にある勢いは大変力強く、重要過ぎるため後退することはありません。

この注目に値する進捗は 10 年内に行われています。財務報告における国際的なリーダーシップを提供するという欧州の戦略は、支持されます。しかしながら、このことは IASB が欧州の支援を当たり前のようには考えている訳ではありません。

それゆえに、IASBは新基準の開発の際に欧州の利害関係者に広く諮問しているのです。我々はEFRAGと欧州委員会との間に強固な関係を築いてきました。我々は、基準設定活動の一環として、欧州加盟国全ての基準設定組織に諮問し、欧州の投資家や作成者グループその他の代表からのインプットを求めています。

対話の頻度と深度にも関わらず、意見が一致しないことがあります。欧州は欧州の利益を心に留めていますが、IASBは世界中からのインプットを考慮しなければなりません。欧州内においてさえも、個々の欧州加盟国間または、欧州の投資家と作成者間で、しばしば会計の問題について意見の不一致があります。

不一致が生じると、IASBに選択を実行する責任が課されますが、その選択は我々が基準設定活動により行われたもので、適切なデュープロセスと監視によって、適切に伝達され、理にかなった判断であることが前提です。

我々は、信頼と我々の基準を適用した方からの賛同を増大させることを継続します。

我々はIASBと欧州の組織的な関係の強化を継続し、残りの世界とも同様のことを行います。それが、我々が独立して基準設定主体として、皆様方の信頼に報いられなければならないことです。これは、グローバルな基準設定の機関へと進化するIASBの組織としての優先事項であり続けます。

② 会計基準の役割と金融危機についての考察

次に会計基準と金融危機の関係についてお話しします。

この開会の短いスピーチでなく、より多くの時間を費やすに値する問題です。しかし、私は我々の作業のより詳細な側面を議論する前に、いくつかの背景をお話しすることが有益と信じています。

危機は、ビジネススタンダードの崩壊とマクロ経済政策の失敗により巻き起こされました。規制の失敗は、取り返しがつかなくなるまで、巨大なリスクの成長を不可視にさせる結果となりました。

多くのケースでは、自らが取っているリスクに対して投資家が十分に認識できるほど、透明性がなかったのです。

そもそもこのようなことは、信じがたいものであり、再発させてはなりません。この点では、財務報告は重要な役割を果たします。

透明性は、朝に、私達のような会計基準設定主体をベッドから起こすものです。最高度の透明性は、財務諸表の利用者をして、企業の財政状態の暗黒の片隅へ、覗き込むことを可能にさせるものです。

透明性は、会計専門家が、金融市場の長期的な安定をもたらすために、唯一・最大の貢献を行うことができるものです。これは長期の金融安定化の前提条件です。透明性がなければ、金融安定化をもたらす手段はうわべに過ぎず、対応不可能になるまで不可視のままリスクを成長させることを許してしまいます。

透明性は常にきれいな像を描くわけではありません。最近の経済のボラティリティの多くは、深く根差したものです。ドイツ銀行のCEOは最近このように発言しています。「ボラティリティは新しい正規性(normality)だ」と。過去には存在したとしても、「無リスク資産」の時代はとうに去ったのです。

もし本当に、ボラティリティが新たな正規性だとすると、会計基準設定主体はどうやって対応すべきですか？我々は、この根本的な経済のボラティリティを投資家が学ぶことについて、人為的に遮蔽すべきですか？ないし、会計人は極力正確かつ最高度の透明性をもって、この新たな正規性を記述するように努力すべきですか。

私が話すほとんどの方は、財務報告は、それがどうありたいかではなくて、それはどうなっているかを示すものだと思っています。もし皇帝が服を着ていなかったら、財務報告はそうだという責任があります。たとえ真実が不人気であってもです。

しかし、これに対して一つの重要な抗議があります。会計人に経済のボラティリティを記述するように求めるのが一つですが、財務情報が経済のボラティリティの源泉となることがないように注意して行動すべきということです。そのためIASBは常に、適用する測定技法については、実務的なものであり続けるようにしています。誰も正しい答えを持っている者がいないことを我々は知っています。そのため、我々は混合測定アプローチを採用し、取得原価と公正価値を組み合わせています。我々が最近、流動性の少ない市場において、公正価値測定の新たなガイダンスの提供を完了させたのは、その為です。また、金融商品会計の再構築のために注意を払って進行させているのは、その為です。今度のヘッジ会計のルールは、リスクをヘッジする企業の人為的な会計のボラティリティの発生を抑えることとなります。会計はボラティリティにマスクをかけるのではなく、またその原因となるものでもありません。

③ 結論

委員の方々、ご清聴ありがとうございました。私達は本当に興味深い時間を過ごしています。私達はグローバルな金融システムが直面している多くの根深い問題に対して協同しなければなりません。

私の皆様へのお約束は、IASB は、議会や委員会を含む欧州の利害関係者と協同していくということです。私達は皆様との深い関与を追及していきます、そして、金融市場における投資家の信用を得るための役割を果たします。

この短いスピーチでお話ししていないことは沢山あります。皆様方のご質問に喜んでお答えします。

ありがとうございました。